

アルアラビアとのインタビュー

2003年12月29日、アラブ首長国連邦衛生テレビ局アルアラビアと単独インタビューを行いました。ドバイのオフィスに於いて、イラク特派員でありまたイラク人でもあるシニア・レポーターの Mr. Sabah Nahi Fajer にインタビューしました。日本人女性が単独でインタビューに訪れるのは初めてということと、自衛隊が派遣される時期とたまたま重なり、快くインタビューに応じてくれました。インタビューは一時間ほどで、英語とアラビア語で行なわれました。



(Q) イラクの現状についてお話しください。

(A) 現在イラクは危険な状態になっている。戦争によりイラクの政府、軍隊、警察などすべてが破壊されてしまい、イラク人は、大きな不満と不安を抱いている。米国はイラクに自由と開放をもたらすことを約束したが、未だに治安は回復してなく、復興は進んでいない。その期待は裏切られようとしている。

今でも電気は24時間中2時間しか動いておらず、水道も16都市で不足状態が続いている。失業者は1千万以上にも及んでいる。このような高い失業率は、サダムフセイン政権の時代にはなかったことだ。教育水準も落ちてしまった。国が復興するまで、イラク人はあとどれだけ我慢しないといけないのだろうか。米国はイラクを救うためにフセイン政権を崩壊させたが、イラク人に対する支援はまだ十分でない。

イラクがこのような悲惨な状況になったのは、各国の石油の利権がからんでいるからだ、イラク人は感じている。イラク人はもともと知的で、良い生活を営んでいた。アラブ諸国の中でも、教育水準は高かった。また一万年以上にも及ぶ古代メソポタミア文明が続いた誇り高き優秀な国である。それなのに、なぜイラクはこのような悲惨な状態で苦しまなくてはならないのか。イラクにとって、これは大きな疑問である。イラクの歴史は帝国主義による破壊の連続だ。20世紀初めには、英国がイラクに侵攻してきた。その時、英国は「我々はイラクに自由と開放をもたらすためにやってきた」と言った。今米国はこれと同じことを言っているが、それが実現するかどうかは疑問だ。

米国は大量破壊兵器を廃棄する目的でイラクに侵攻したが、その証拠は未だ何一つ出ていない。サダム・フセインは、イラクには大量破壊兵器が存在していないことを初めから宣言している。独裁的なフセイン政府を崩壊させるために、大量破壊兵器という口実をつくり、対イラク戦争を正当化させたのか。アラブでは、何もサダム・フセインだけが独裁者ではない。アラブには多くの独裁者がいる。

それから、今問題なのは、イラクには一つの主権国家が必要であるのに、クルド人、シーア派、スンニン派と異なる三民族がそれぞれ異なる主権を主張していることだ。連邦制主張したり、自分達を中心とした国家を主張する民族もいる。今後彼らが協

力してイラクが一つの国家になるか、または分裂してしまうかはわからないところだ。

(Q) クルド人とシーア派が協力することも期待できるのですか。

(A) 彼らは共にサダム政権下で虐待を受けた経験をもっている。だから、逆にここで協力することもありえる。しかし、今後イラクの治安が悪化すれば、国が分断されることも十分にありえるだろう。それを望んでいる周辺国もいるようだ。イランはイラクと長い国境に接している。過去にはイラク・イラン戦争もあったほどだ。また、ある外国の新聞報道によると、イスラエルは現在クルド人が居住しているイラク北部に軍事基地を置くことを考えているようだ。だから今後、どうなるかは全くわからない。

いずれにしても、米軍がイラクから撤退しなければ、イラクの状況はよくなるまいだろう。イラク人は占領軍に反対だ。外国の軍隊に「占領」されることを、ひどく嫌っている。また占領に対し、反撃もしてくるだろう。米軍が存在するだけでイラク人は恐怖を感じ、混乱してしまう。しかし、イラクから米軍が撤退してしまえば、イラクの治安はさらに悪化し、復興が進まなくなることも事実である。

(注釈：後で知ったことですが、イスラムの聖典コーランには、イスラム教徒は相手に危害を与えることは許されてなくとも、自分達に危害を与える相手に対しては、たとえそれが占領軍であっても、正当防衛として聖戦(ジハード)が許されているということです。)

(Q) それではイラクは米軍に撤退してもらいたいのですか、それとも復興支援をしてもらいたいのですか。

(A) イラク人は米軍に占領をやめて撤退してもらいたいと思っている。しかしそれと同時に、米軍がイラクから撤退した後、イラクが不安定な状態になることを懸念している。米国の戦争で、イラクは破綻国家になってしまった。イラク政府も軍隊も警察も消滅してしまったので、イラクは国家として機能していない。イラクは85年前の建国当時と同じ状態に戻ってしまった。

そうすると、米軍に撤退してもらいたくとも、撤退してもらっては困るのが実情だ。また国連が活動していたが、撤退してしまった。これはすべて米国が作り上げた問題ではないか。



(Q) それではイラク人はどのような復興を願っているのですか。

(A) イラクには、米軍の占領ではなく、国連などの国際社会の支援が必要だ。イラクの治安が悪化し国が分断されてしまうかどうか、またはイラク人が互いに妥協し合って復興のために協力できるかどうかは、国際支援にかかっている。イラクは政府、軍隊、警察が破壊されたために、国を統一する求心力がない。イラクを統一する外部の力が必要であり、それを国連を中心とする国際支援に望みたい。

(Q) 日本の自衛隊がイラクに派遣されることをどう思いますか。

(A) イラクの治安は悪く、イラクの復興を望まない抵抗勢力が依然勢力を振るっているので、現時点で軍隊をイラクへ派遣することは賢明な判断ではないと思う。イラクでは毎日のように闘争が続き、米国、英国、やイタリアの兵士が多く殺されている。日本人の外交官も二人殺害された。彼らは私の友人で、私のイラクの事務所まで来ては、よくイラクの状況について話をしていて、彼らの死はとても悲しいことだ。日本は戦争がどういうものなのかよく知っている国だ。だから軍隊派遣が何を意味するかよくわかると思う。

(注釈：日本の自衛隊は軍隊でないとい何回も説明しましたが、迷走服を着て武器を持っていれば紛れもなく「軍隊」だとして、軍隊になってしまいました。従って、ここでも、「軍隊」という言葉を使うことにしました)。

他のアラブの国がしているように、軍隊ではなく人道支援団体、NGOや民間の技師や医師を派遣してもらいたい。それは彼らが争いではなく、イラクを復興させるためにやってきたことがわかるからだ。そうすれば、イラクの人は花束をもって歓迎することだろう。



(私が反対に質問される)もしアメリカが日本に戦争し、そして占領した後に、イラクが人道支援を目的としてイラク軍を日本に派遣するとしたら、日本人はどう思いますか。日本人だって、軍隊ではなく、民間人に来てもらって復興支援をしてもらいたいと思うことでしょう。

イラク人に必要なのは、以下のような民間人の支援だ。

電気整備士：1日の内2時間しか機能していない電気を即復旧できる電気技術者

道路整備士：機械をもってきて、道路整備をしてくれる整備士。

兵器撤去作業士：町中に散乱しているミサイルなどの兵器を撤去してくれる専門家。

農業専門家：戦争で倒れた木々を埋めなおしたり、田畑など農業を復旧してくれる専門家。

水道整備士：ダムなどの建設を含み、水道の整備をしてくれる専門家。

医療関係者：医師や看護婦。多くの医薬品も必要である。

そしてこれらの支援を一つの町に集中して行い、一つのモデルケースとして成功させてもらいたい。候補地は、ナッシリアとサマワである。そうすると町の人々は、日本がどのように町の復興に努めるか実感し、目にすることができる。それが成功し一つの町が復旧すると、生活が豊かになり欲求不満が消えていく。また日本人は復興のためにイラクにやってきたことが、身をもって理解してもらえる。またイラクの復興に取り組んでいる民間の日本人に危害を加えるようなイラク人はいない。それどころか、他のアラブの人達もそれを見て、日本への理解を示してくれるであろう。そしてその支援体制をイラク全土に広げていってもらいたい。これがイラク人が今一番求めているイラクの復興の姿だ。

私のコメント

今回発表するこの内容は抜粋だけですが、実際のインタビューは、日本に惜しみなく科学技術を使ってイラクの復興のために貢献して欲しいと願う痛烈な内容でした。現在、イラクのサマワでは日本の貢献が評価されつつありますが、イラク人は、日本がもっと最先端の科学技術を使って自分達の生活を一日でも早く改善して欲しいと願っています。電気が1時間でも長くつくようになれば、きれいな水が少しでも長く使えるようになれば、また病院や学校がもっと復旧すれば、イラクの人達はだんだんと幸せになっていくのです。日本はそうのように努力しつつも、まだ十分だとは思われていないのが実情です。また日本のイラク支援が日米同盟や国際協調のためではなく、イラク人のためであるというメッセージを明確に伝えるためにも、日本はイラクが求める支援を主体的に行い、イラクの人達が少しでも幸せになれるような支援ができることを願ってやみません。

